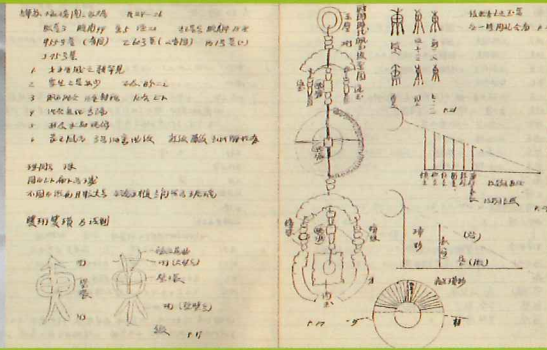




自作のブックカバー



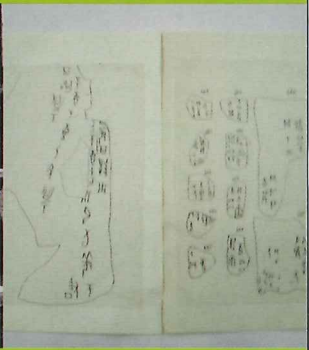
編纂の字書



自筆ノート



授業風景



殷虚卜辞のトレーシング



原稿と並ぶ白川先生

漢字研究の第一人者 白川 静 先生



その研究の足跡

1910 (明治 43) 年 4 月 9 日福井県福井市に生まれ

1943 (昭和 18) 年 9 月に立命館大学法文学部を卒業、

同大学予科教授、同大学専門学校教授、同大学助教

1954 (昭和 29) 年に同教授となる。

我が国と中国とが東アジア地域において文化的類型性をもつという広い視野に立ち、

中国最古の文字資料である殷・周の甲骨文や金文に対して体系的な研究を行い、

中国および日本の古代文化について独創的な研究を築き上げ、その学説は世に「白川文字学」と称され、

内外の学界に高い評価を得た。数万片の甲骨資料をすべてトレースして書き写すという、

世人にはなしがたい基礎作業を通して、漢字の原義を字形学的に体系化し、

その真意を解明した独自の字説は、1900 年間もの長い間、

字源研究の聖典として権威をもった後漢の許慎『説文解字』の誤りを正した。

60 余年におよぶ漢字研究の成果を、独力で大冊 3 部の字書（『字統』『字訓』『字通』）に編纂し、

漢字文化の豊かな世界を広く世人に理解せしめ、今後の文字表現のあるべき道を示唆した。

研究は、もともと日本の古代を考察することに端を発しているが、比較研究の必要性から、

中国の古代に広がり、漢字文化圏全体に亘る壮大な研究になっており、

広く東アジアの漢字文化圏の文化に対して多大の研究成果を挙げた。

1998 (平成 10) 年 11 月文化功労者として顕彰

2004 (平成 16) 年 11 月文化勲章

2006 (平成 18) 年 10 月 30 日、逝去。享年 96。



甲骨



青銅器



記念講演会

『師という文字の成り立ちとその変遷』

講師：
立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所
客員研究員 高島 敏夫 先生

6月15日(土) 午後2時～
愛知芸術文化センター 12階